

ラ ッ カ セ イ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型である。窒素をはじめ養分吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壤への残存養分は低く制御できる。根粒菌による窒素の供給は比較的大きい。

〔病害虫・雑草防除〕

土壤病害虫対策として連作を避け、排水を良好に保つ。過度の密植を避け、適切な整枝を行い、風通しを良好にし、黒渋病や褐斑病などの病害の発生に注意する。生育初期には防虫ネットによる被覆等を行い、害虫の被害を回避する。病害虫の早期発見に努め、適期防除で化学農薬の低減に努める。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壤診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。	堆肥 0.8~ 1t/10a
化学肥料 低減技術	全量基肥とし、局所施肥(条施肥など)を基本とする。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20~50%
化学農薬 低減技術	機械除草を行う。 BT剤を利用する。 (対象:ハスモンヨトウ) 対抗植物(クロタリア、ギニアグラス等)を利用する。 (対象:キタネコブセンチュウ) 光反射マルチを利用する。 (対象:アブラムシ類、雑草など) 防虫ネットで被覆を行う。 (対象:アブラムシ類、カメムシ類など) マルチ栽培を行う。 (対象:雑草など)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	生育期間は比較的長い、種子発芽、茎葉生長への影響から多肥は避ける。また条施肥などでは種子と堆肥、肥料が接触しないようにする。石灰施用の収量・品質向上の効果は高い。石灰が不足すると空莢が多くなる。	

ラ ッ カ セ イ (施設) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型である。窒素をはじめ養分吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壤への残存養分は低く制御できる。根粒菌による窒素の供給は比較的大きい。

〔病害虫・雑草防除〕

土壤病害虫対策として連作を避け、排水を良好に保つ。過度の密植を避け、適切な整枝を行い、風通しを良好にし、黒渋病や褐斑病などの病害の発生に注意する。生育初期には防虫ネットによる被覆等を行い、害虫の被害を回避する。病害虫の早期発見に努め、適期防除で化学農薬の低減に努める。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	<p>土壤診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。</p> <p>肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。</p>	<p>堆肥 0.8~1t/10a</p>
化学肥料 低減技術	<p>全量基肥とし、局所施肥(条施肥など)を基本とする。</p> <p>有機質肥料による施肥を行う。</p>	<p>分量で施肥基準以下</p> <p>有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20~50%</p>
化学農薬 低減技術	<p>機械除草を行う。</p> <p>BT剤を利用する。 (対象:ハスモンヨトウ)</p> <p>天敵農薬を利用する。(対象:ハダニ類など)</p> <p>対抗植物(クロタリア、ギニアグラス等)を利用する。</p> <p>(対象:キタネコブセンチュウ)</p> <p>夏季に太陽熱土壤消毒を行う。 (対象:土壤病害虫、雑草など)</p> <p>光反射マルチを利用する。 (対象:アブラムシ類、雑草など)削除する。</p> <p>流滴性被覆資材を利用する。 (対象:灰色かび病など)</p> <p>近紫外線除去フィルムを利用する。 (対象:灰色かび病、アザミウマ類など)</p> <p>施設の開口部やサイドを防虫ネットで被覆を行う。 (対象:アブラムシ類、カメムシ類など)</p> <p>マルチ栽培を行う。 (対象:雑草など)</p>	<p>慣行使用回数の 20%減</p>
その他の 留意事項	<p>生育期間は比較的長い、種子発芽、茎葉生長への影響から多肥は避ける。また条施肥などでは種子と堆肥、肥料が接触しないようにする。</p> <p>石灰施用の収量・品質向上の効果は高い。石灰が不足すると空莢が多くなる。</p>	